

# 埼玉県立自然の博物館で実施した 「地質の日」記念行事の概要

楡井 尊<sup>1)</sup>・本間 岳史<sup>1)</sup>・田口 聡史<sup>1)</sup>・井上 素子<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

埼玉県立自然の博物館は、秩父の景勝地、長瀬<sup>ながとろ</sup>に立地する博物館です。前身の秩父自然科学博物館の資料を受け継ぎ、1981年に埼玉県立自然史博物館となり、2006年4月に埼玉県の博物館施設再編に伴い埼玉県立自然の博物館となり、現在に至っています。当館では、博物館施設の再編に伴い展示の部分更新を計画し、2008年2月2日に一部のリニューアルを実施いたしました。地質分野では、「長瀬の地質」紹介コーナー、秩父・長瀬の地質学史コーナーを新設し、「新第三紀の秩父盆地」コーナーを更新いたしました。

事業推進委員会の呼びかけに応え、2008年5月10日に「地質の日」記念行事を実施するための検討は、前年秋から展示改装の準備と並行して進めました。その際、前述した展示内容の変更も念頭に置きながら、行事内容の検討を行いました。

当館は近代地質学が明治に日本に導入されて以来研究が進められると共に、地質見学の適地として知

られている長瀬に立地している博物館であり、地質巡検に際して来館されるお客様も多い博物館です。そのため、その特徴を生かした行事をと考えました。幸い現館長が地質の学芸員であることもあり、午前中は館長講演として「日本地質学発祥の地」秩父・長瀬と地質研究史<sup>いわだみ</sup>を行い、午後は「岩畳の地質を訪ね<sup>とらいわ</sup>」周辺と岩畳の地質観察会を実施することとしました。事業は自然担当で地質分野を担当する学芸職員3名と館長の合計4名で実施しました。

## 2. 講演会の概要

午前は、2階講堂で本間岳史館長が上記演題で記念講演を行いました。「地質の日」の取り組みは今回が初めてでしたので、5月10日を参加者に印象づけるために、「今日は何の日?」と題し、5月10日(1989年)は女優の和泉雅子さんが日本人女性として初めてスノーモビルで北極点へ到達した日であることなどを紹



写真1 講演会の様子。



写真2 キンクバンドを説明する本間岳史館長(矢印)。

1) 埼玉県立自然の博物館  
369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1

キーワード：地質の日、記念行事、埼玉県立自然の博物館、岩畳、長瀬、秩父



写真3 岩畳での観察会の様子。



写真4 白鳥島の褶曲を観察して終了。

介してから、「地質の日」の由来についてお話ししました。

また、秩父・長瀨地域は、わが国で初めて本格的な地質学研究が開始された場所で、優れた校外学習の場であること、当館は、規模は小さいが長い伝統があることなどから、当館で「地質の日」のイベントを行うことは大変意義があることについてもふれました。

講演の前段では、まず北から南へ先新第三系各地帯の地質学的特徴を解説し、次に従来秩父古生層と呼ばれた地層の大部分はジュラ系であり、ジュラ紀から白亜紀にかけて大きな地殻変動が起こったこと、新第三紀には海が広がり、第四紀には河岸段丘が形成されたことなど、秩父・長瀨地域の地史をお話ししました。

講演の後段では、当地域の地質研究史について、江戸時代以前(和銅、平賀源内と秩父鉱山など)、明治(ナウマン、小藤文次郎、大塚専一など)、大正(神保小虎と鉱物植物標本陳列所など)、昭和(藤本治義と秩父自然科学博物館など)の順に紹介しました。

最後に、秩父・長瀨地域の主な地質遺産(名勝・天然記念物など)をリストアップし、ジオパークの重要な要素であるジオツーリズムの振興に向けた取り組みを訴えて、講演を締めくくりました。

### 3. 地質観察会

午後1時に博物館玄関を出発し、岩畳経由で長瀨

駅までのコースの観察をしました。観察内容は、宮沢賢治の歌碑、スティルプノメン片岩の露頭(通称“虎岩”)と折りたたみ褶曲、川原の礫から上流の地質やインブリケーションの観察、岩畳の結晶片岩類の種類と構造(片理、節理、雁行裂か、キンクバンドなど)、岩石段丘としての岩畳の地形、岩畳上のポットホール、荒川の流路変遷で取り残された島状の岩(通称“白鳥<sup>しらとり</sup>島”)に見られる折りたたみ褶曲、などです。終了時間は午後3時半ころでした。当日は雨天だったため傘をさしての観察会となりました。足下が悪く移動に手間取った人たちもいましたが、反面、雨で岩が濡れていて色や構造が観察しやすい状態になるので、あえて雨天でも決行しました。参加者からは「雨の岩畳も綺麗なものですね」との感想がありました。

### 4. おわりに

今回の参加者は、講演会とセットだったこともありほとんどが大人でした。埼玉県内の地学関係者(教員)や都内の地質コンサルタントの方の参加もありました。参加人数は33名でした。当館では今後も毎年、秩父地域の観察会などを5月10日の「地質の日」に定例化して行うなど、積極的に地質学のアピールを行っていきたいと考えています。

---

NIREI Takashi, HOMMA Takeshi, TAGUCHI Satoshi and INOUE Motoko (2009): The outline of Geology Day's memorial events in Saitama Museum of Natural History.

<受付: 2008年8月28日>